

2011(平成23)年度 第1回				開催月日		2011年4月11日(月)				
FD支援プログラム・指定PJ 定例MT議事録				場所・時間		13号館1階会議室・16時20分～18時00分				
出席者	△	小西由浩	○	藤波潔	△	平良直之	○	前堂志乃	○	友知政樹
	○	佐藤敬明	○	喜世川悠						
幹事：教学課 玻名城政弘、中山かつら										
議事	<p>1. FD支援プログラム指定PJの概要について 開催に先立ち、FD支援プログラムの概要について説明を行った。</p> <p>2. PJメンバー間のルールについて 「PJメンバーは対等な存在であること」、「義務感だけで参加しない」、「ポジティブな態度」、「学び合う姿勢」について、本PJの共通認識とした。</p> <p>3. 「本学のシラバス制度について思うこと」 メンバー間で、自己紹介のアイスブレイクを兼ねて、「本学のシラバス制度について思うこと」について意見を述べた。意見の概要は次のとおり。(箇条書きにて記す)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様式の制約が多いのではないかな。 ・建前と本音のシラバスがあってもいいのではないかな。 ・授業評価アンケートの課題と同じような構造があるのではないかな。体裁を整えることのみで終始して、読んでもらうにはどうすれば良いのかという視点が欠けているのが現状ではないかな。 ・シラバスの導入したときに関わっていたが、これを毎年作成するのかなと思うと愕然とした記憶がある。 ・そんなに問題意識を感じたことがないのが率直な意見です。問題が見えていないのが現状かもしれません。 ・予定は未定というのが実情ではないだろうか。内容変更は誰にもあることではないかな。 ・今年度からシラバスがコンパクトになって個人的には良いと思うが、入学生の場合、ネットを活用してシラバス見るのもおぼつかないのではないだろうか、また、2～4年次も、しっかりと読んで登録しているのかは疑問を感じる。 ・本学のシラバスについて、特段の問題を感じたことがない。学生は、冊子として持つだけで満足かもしれない。また、持ち歩くことは少ないかもしれないと感じる。 ・様式については特に問題を感じたことはないが、提出をお願いする立場から、提出率を重視しているので、提出しない教員に対して問題意識を感じる。 ・詳しくはWEBで確認する方法が正しいのかについても議論できれば良い。 ・期限を守るためにどうすれば良いのかという工夫も必要かもしれない。 ・シラバスを書くことになる前は、教員の任意で授業開始時に配っている程度だった。 ・シラバス作成が必修になって、外部にも公開するものなので、文語体にしてほしいという意見から学生に理解しやすいシラバスに変わってきた印象。 ・授業計画の作成時期とシラバスの提出時期と噛み合っていないので、学務課へ提出するシラバスに記載する授業計画はざっくりとしたものになりがちである。学生にとって「何を授業でするのかが見えにくい」シラバスになっているのではないかな。 									

- ・必修科目は絶対取るので、シラバスの意義は見出しにくいですが、共通科目や自由選択科目を学生が選ぶ場合にシラバスの意義が高いのではないかと。共通科目を理解しやすいシラバスにすることは効果が高いのではないかと。
- ・これを学んで、次にこれを学んでという、順次性、体系性が分かるシラバスになると役に立つシラバスになるのではないだろうか。

4. PJ概要について

次のとおり説明があった。

(PJ概要)

「利用価値向上と負担軽減を両立させ、学生の学習支援にとって必要かつ最適の情報が記載されたシラバスにするためにはどうすべきか」などについて説明があった。

(PJのねらい)

シラバスは何の（誰の）ために作成するのかという認識が学内で共有されているのかについて説明があった。

(PJの目標)

「誰にとっても利用価値の高いシラバスの『沖国大モデル』を構築する」

5. 年間活動計画について

次のとおり説明があった。

(前期)

月	活動内容
4	● キックオフ・ミーティング
5	● 本学のシラバス制度の実態(導入経緯、提出率、アクセス数、システム) ● 政策動向
6	● 他大学の事例検証 ● シラバスについての理論
7	● 講師招聘による勉強会 ● 視察先の選定
8	● 視察訪問の実施

(後期)

月	活動内容
10	● 後期活動予定の調整 ● 視察訪問の報告
11	● 新シラバス制度の検討(内容、運用、活用)
12	● 新シラバス制度の検討(内容、運用、活用)
1	● 活動成果報告書の分担確認
2	● 活動成果報告書の執筆

議

事

議	<p>6. これまでのPJ概要、年間活動計画を踏まえて（意見聴取） これまでの説明を踏まえて、意見聴取を行い、次の意見が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当職員は、提出率アップを目指していることに終始していて、シラバスの内容について突き詰めて考えたことがないのかもしれない。 ・シラバスの内容は、学生にとって難しいコトバで書かれているかもしれない。また、最近の学生は、文章を読むのに慣れていないと感じる。 ・メニューを読むように、携帯の取扱説明書を読むようにシラバスを学生に読んでもらうにはどういうアイデアがあるだろうか。 ・シラバスの問題点に着目したのは、現行のシラバスが、「書きにくい」ということに尽きる。原因としては、「字数制限」があることが大きく、「特に、授業のねらい・目的」の項目について、200文字はきついと感じる。そのため、授業の冒頭で詳細に説明している。 ・授業登録画面でシラバスが出てこない設定になっているが、それを改善することはできないだろうか。 ・登録と実際の履修のミスマッチを軽減するために、シラバスはどうあるべきかを考える。 ・WEB上でシラバスが体系的に記されている画面があると分かりやすいかもしれない。 ・学務課のシステムを変えられるのかという問題はとても大きい。 ・シラバスが無い頃は、ロコミによる登録・履修が多かったのではないか。 ・シラバスが無い頃は、カリキュラムそのものが複雑ではなかった。 ・シラバスが無い頃は、「学習効果のある履修とは何か」について教職員も学生も考えたことが無いのではないか。
事	<p>7. 調整事項</p> <p>①プロジェクト・リーダーの選出 総合文化学部 藤波潔 准教授 を選出した。</p> <p>②定例ミーティングの日程 毎月第4月曜日の5時限目（16：20～17：50）とした。 なお、今回は、5月23日(月)の開催とする。</p> <p>③ミーティング記録の公開・情報発信 2010年度は、FD委員会への報告のみだったが、学内外（ガルーンやQ-Linksなど）からより多くのリアクションや意見を集約する方法を検討した。本学のFD活動広報の一環として、より多くの情報提供を得るための一助として、本学HPに本PJのミーティング記録を掲載することを承認した。 なお、議事録公開については、PJメンバーの承認を経た後に学内外へ公開する。</p> <p>④学内の多様な声の聴取方法 教職員、学生からより多くの声を聞くための方法について意見交換を行った。 その結果、次の意見が出たが、結論が出なかったため、今後の検討課題とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PJメンバーで、個々に意見聴取を地道に行う。 ・全教員へアンケートを行う。（本音の意見がアンケートで集約できるかが課題） ・学生に対して、ワークショップやアンケートを実施することで、教職員にはない考え、気づきが得られるかもしれない。 ・学生の声を、モニタリングする場を設けてはどうだろうか。

議 事	<p>⑤次回のミーティングでの報告者 次のとおり、報告者を選出した。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 政策動向について (藤波)2) 本学のシラバス制度の実態 (喜世川、中山)<ul style="list-style-type: none">・喜世川：提出率、システムの概要について・中山：本学におけるシラバス導入経緯、これまでの展開について <p>⑥連絡・情報共有ツールの設置 原則として、ガルーンのキャンパスメール内で、本PJの連絡・情報共有を行って行くことを確認した。また、本学HP内に本PJの活動内容に関するコンテンツを立ち上げることを確認した。</p>
--------	---